



のりみが行く!!

横浜市狭あい道路の整備促進に関する条例改正へ向けて!!

我々、横浜自民党では、2011の統一選挙で8つの条例制定を約束し、今まで7つの条例制定を果たしてきましたがようやく8つ目の条例改定への条例案がまとまりました。

狭あい道路って?

幅員が4メートルに満たない道路(主に建築基準法第42条第2項で定められた道路)で、日常生活の上でもゴミ収集車の収集に不便をかけたり、緊急時の救急車や消防車の進入等の妨げになっています。



前



後

条例改正の趣旨

道路幅を確保するため後退(セットバック)した土地を道路として円滑に使用できるような整備や維持管理を促進し、ゴミ収集車・緊急車両の通行や災害時の避難などに支障が出ないようにするための条例改正です。

改正のポイント

- ① 整備促進路線のうち建築基準法第42条第2項に規定する道路に接する土地で建物の建築・建て替えをする場合、後退用地の整備について市と協議することを義務化します。
- ② 整備が完了した後の整備促進路線に接する角地(後退用地・すみ切用地)について、買取りに向けた市との協議制度を設けます。
- ③ 建築主等が後退用地を整備する際に、歩行者、車椅子、車両等の通行に支障ない平坦な道路形態に整備するよう努めることとします。
- ④ 補助金を受けて整備した後退用地等に支障物を設置することや、整備された形状を変更することを禁止します。
- ⑤ ①や④の義務が守られない場合は、指導・勧告の実施、工事費の返還請求ができるようにします。



責任と約束

横浜自民党として、狭あい道路の整備を促進する為の条例案がまとまりました!

私は市会議員になってから、この5年間、横浜自民党の中で"生活道路整備促進条例プロジェクト"の事務局として座長の渋谷たけし市会議員と一緒に活動してきました。横浜市内には1,900kmの狭あい道路があり、横浜市ではその中の505キロメートルを「整備促進路線」として指定し、門や塀などの整備支障物の除去又は移設に要する費用、擁壁の除去又は築造に要する費用、整備用地、すみ切用地の舗装に要する費用などの助成は行っていますが、年間に約8キロメートルしか拡幅出来ていない状況にあり、大きな課題となっている問題を少しでも解決する為に条例案が完成して市民意見募集を行っています。これから市会も場で議論していきますが、市会議員になって街のルール(条例)を作る事が目的で立候補した私にとっては、議員として条例を作り上げていく過程を経験出来てとても感動しております。この条例を作成するまでに長い時間と議論を有しました。条例とは、真に横浜市の為に、市民の為になるものでなければなりませんので、制定されるまではまだまだ条例文を読み込み、もっともっと議論を積み重ねていく必要があります。

2014年6月28日

友人の認定NPO法人スマイルオブキッズ田川尚登さんと小林英生現横浜小児ホスピス設立準備委員会代表を引き合わせる

2014年8月15日

藤沢の元看護師からの1億500万円の寄付を元手に横浜小児ホスピス設立準備委員会発足

2015年1月23日

横浜小児ホスピス設立のためのハートフルツアー Vol.1 開催、以降2015年中に計4回開催

夏休みに開催したコンサートには市内の小学生を100名無料招待⇒新聞各紙に掲載され、その記事をご覧になった市民より1億円の寄付

2015年12月

市民合唱団を結成、みなとみらいホール大ホールでお披露目

2016年2月

横浜市会で自民党の松本研氏が本会議にて議論し、林市長から当団体の活動について前向きな答弁、その後梶村横浜市会議長の呼び掛けにより全市会議員対象の超党派勉強会を開催

2016年2月29日

横浜市医療局長城氏を始め医療局の方と顔合わせ、医療局が窓口となり、横浜市と連携した取り組みを開始

2016年3月

医療局職員が大阪のTSURUMIこどもホスピスを視察

2016年5月18日

初のシンポジウムを開催、城医療局長、参議院議員の厚労委員長の三原じゅん子参議院議員等が来賓として参加。この活動の公式テーマソングを発表

シンポジウムが新聞各紙に掲載され、TVKの番組内にて放映される

2016年6月20日

神奈川県がん撲滅をめざす議員連盟役員会にて講話

2016年7月7日

賛同団体が100団体を超える

2016年7月13日

京急線横浜駅～金沢八景駅の全駅にコンサートのポスター掲示

2016年7月20日

コンサート開催、横浜市内の大学生以下の子供を無料招待実施

【現在】

過去5回のコンサート活動を通じて、募金総額が約2億5千万円になる

【今後】

余命を宣告された子供は死の直前まで成長し続けていきます。そして、子供は最後の瞬間まで遊び続けたいと願っています。現状では、余命を宣告された多くの子供は病室のベッドの上で亡くなっていきます。その病室には基本的には親御さんしか入れません。私は3年以内に、病気の子供やご家族が安心して過ごせる"小児ホスピス"を横浜に建設したいと考えています。その施設は、地域に親しまれ、愛され、地域に解放されて、いつでも子供達の笑い声が絶えない施設であって欲しい、そんな風に思っています。



建設資金 目標3億円のうち2年間で
約2億5千万円を集める!



横浜に小児ホスピスを創りたい



私は横浜市議員になる前は子育て支援、防災まちづくり活動、国際交流と子育てをしながら市民活動を行ってきました。そんな中、18年前に6歳でお嬢さんを病気で亡くし、その後も病気の子供やご家族を支援している友人の田川さんと2年前に再会し、田川さんの「小児ホスピスを創りたい!」という熱い想いに共感して、金沢区の仲間を中心に活動してきました。建設資金の3億円を集める事の無謀さを感じながらも、仲間と共に汗を流し、議論して活動を続けてきたお陰で、今では募金額は約2億5千万円までになりました。いよいよこれから新しい法人を立ち上げて建設計画、今後の運営方針などを具体的に決めていかなければなりません。私は市民活動をしてきた時の情熱を忘れずに、市議員としてしっかりと仲間をサポートしていきたいと思っています。また、これを機会に、「夢は必ず叶う!」と、最後まで諦めない気持ちを、若い世代の方々に伝えていきたいです。